

玉造教会ニュース

3月号

発行：玉造教会 評議会

編集：玉造教会 広報委員会

シャローム

〒540-0004

大阪市中央区玉造2-24-22

TEL 06-6941-2332

FAX 06-6941-2605

2017年3月5日 412号

「断食の意味」

高島 政行 神父

今月に入り私たちキリスト者は四旬節を迎えました。3月1日に行われる「灰の水曜日」から始まる四旬節は、「復活祭前の40日の期間」として教会の長い伝統の中で大切に育まれて来ました。この40日という数字は、四旬節第一主日で福音として読まれる、イエスの宣教活動の前におこなわれた、荒れ野での断食の40日間が原型です。イエスの受難を思い起こしながら、私たちは断食と愛の行いをもって復活の時を準備するのです。

そして特に、「灰の水曜日」と「聖金曜日」には「大齋」「小齋」が信徒に義務づけられていますが、それを自分の自己満足やダイエットのきっかけにするのなら、不完全な断食といえるでしょう。神が望んでおられる断食とは単に食事を抜くことではなく、人との係わりの中で自分を捧げ尽くすことではないでしょうか。

「わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて虐げられた人を解放し、軛をことごとく折る。

更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまないこと。

そうすれば、あなたの光は曙のように差し出で、あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し、主の栄光があなたのしんがりを守る。

あなたが呼べば主は答え、あなたが叫べば「わたしはここにいる」と言われる。

軛を負わすこと、指を指すこと、呪いの言葉を吐くことを、あなたの中から取り去るなら、飢えている人に心を配り、苦しめられている人の願いを満たすなら、あなたの光は、闇の中に輝き出で、あなたを包む闇は、真昼のようになる。」（イザヤ書 58章 6節～10節）

「灰の水曜日」に私たちは回心のしるしとして額に灰を受けます。この回心はただ単に反省をするだけではなく、神から離れてしまった自分の生き方を、もう一度神の方向に心を回す回心です。他者への「愛のわざ」をおこなうなら、イザヤが述べるように神の光に照らされて私たちは光輝くことが出来るのです。私たちの四旬節は決して、しかめっ面をして暗い顔で過ごす期間ではありません。明るく笑顔で !!